

ひがし

No. 254

57 1 / 20

広報

しらかわ

人口の動き
—12月末住民登録人口から

世帯数	936世
人口	3,733
転入	8
転出	1
出生	1
死亡	6

先月と比較して5人減
日年の同月と比較して31人減



はばだけ
新成人

1月15日、ことしも成人の日の記念行事が村民センターで行われ68人が参加。関係者から祝福と激励を受けました。晴れて大人の仲間入りした若者たちには、いろんな権利が与えられる反面、義務もあり、責任ある行動が注目されます。村の将来を担う若者たち、大きくはばたいてほしいものです。

写真は村民センター前での記念撮影

おもな内

- 村総合計画、基本計画の
あらまし……P2
- 消防団出初め式……P
- 歳末たすけあい募金の結
……P
- 私たちは成年……P6
- 新春将棋大会……P
- ふるさとへの便り……P
- 作品コーナー……P
- 村誌編さん室だより……P
- トピック……P
- けいじ板はP4、5の下

目指すは定住農村

60年度目標の基本計画でもの

昭和六十年年度を目標とする東白川村総合計画の基本計画が見直され、昨年暮れに計画書ができ上がりました。将来村のあるべき姿を見通し、その方策を明らかにして、みなさんの理解と協力によって定住農村を築いて行こうというものです。本号では基本計画のあらましを紹介し、みんなで村の将来を考えてみたいと思います。

明るく住みよい村を目指す東白川村総合計画が策定されたのは昭和四十八年のことです。以来今日まで、基本構想に基づく基本計画が打ち立てられ、諸施策が着々と進められました。

しかし時代の流れとともに社会情勢の変化、国や県の諸施策の変化、加えて住民の要望の多様化などにより、基本計画の見直しが必要となってきました。このため、見直し作業が昨年四月から進められ、昭和六十年年度を目標とする基本計画と、今年度を含めて向こう三か年、五

十八年までの実施計画が作成されました。

基本計画は、昨年九月、モデル的に実施された日向地区のほ場整備事業や、神付地内で始められた生活改善センター事業をはじめとする村づくり総合計画と関連して立てられています。

白川加子母線の早期完成を要望

基本計画は▽基礎的条件の整備▽社会、生活環境の整備▽教育振興▽産業振興▽行財政の合

理化の五章で構成され、それぞれの現状と問題点を見極め、理想的な定住条件を整備するというものです。

基礎的条件の中でおもだったものは、道路や橋の整備です。

国道四一号、二五七号を結ぶ重要路線として、また本村の交通動脈として重要な主要地方道白川加子母線は、村内延長の七三%が未改良のため、早期完成を強く県へ要望することになっています。

このほか村内を走る二本の県道（神土下呂線、越原付知線）の改良整備の促進を図ることになっています。

村道では白川町黒川へ通じる寒陽気線の県道への昇格要請をはじめ、神土角領線の早期完了、欠の湧橋の架設、上親田線の改良などが推進される計画です。

中学校諸施設の改築など検討

教育面では、社会教育の中で

五十五年十一月に制定した「村民の誓い」をもとに、豊かな人間関係、地域連帯意識を育てる生涯教育を強化したいとしています。

小、中学校教育では、豊かな人間形成の基礎づくりのための学校が拠点となります。五十六年三月には旧三校を統合した新しい小学校諸施設が整い、将来を考えた教育がスタートしました。一方、中学校の諸施設は老朽化しており、計画では近い将来校舎の改築と格技場、水泳プールなどの建設を検討することになっています。

基盤整備で収益性高い農業目指す

産業の振興は、基本計画の中で目玉となっているもので▽農業▽林業▽商工業▽観光、レクリエーションを四つの柱としてそれぞれ村づくり総合計画と関連しています。

茶業、養蚕、肉牛、水稲を基幹産業として推進されましたが、水稲の生産調整が厳しさを増しており、従来の形態を継承するだけでは発展は望めない段階を迎えています。

計画によれば農業を軸に、これをとりまく林業、商工業をも含めた均衡のとれた定住条件を整備することになっています。村全域にわたって茶園、桑園、水田など生産基盤を整備し、基幹農道やそのほかの農道を新設するなど、土地の生産性を高めるとともに加工、集出荷、共同処理の拠点をづくり、収益性の高い農業を目指します。

また、これとあわせて経営の受委託や貸借などによる農地の流動化を促進し、担い手農家の育成と農地の有効利用を図る計画です。

水田再編対策には夏秋野菜の産地化

基幹作物の振興は、従来どお

東白川村
総合計画





ほ場整備事業は、57年度から本格的実施になります
(写真は日向地区のほ場整備事業)

り良質生産を基本とする緑茶の反収増加と、気象災害対策を重点にして生産性向上を目指すほか、養蚕の安定化、肉牛の肥育技術の向上と経営改善などが積極的に推し進められることになっていきます。

近年厳しさを増す一方の水田再編対策には、転作作物として本村の立地条件に合った夏秋ナス、トマトを主体に産地化を目指す予定です。

林業発展に不可決な林道網の整備

本村の山林はひのきの生育に適し、東濃ひのきの産地化が積

た。おかげで着々とその目的を果たしつつあることは、皆様の温かいご理解とご協力のたまものであり、心から厚くお礼申し上げます。

村づくり総合計画実施の年

村長・安江多策

上げます。

新しい年を迎え、行革と分散型社会の流れの中で、ますます厳しい幕明けとなりました。こ

極的に進められてきました。これをより促進するためには、林道網の整備が不可欠であり、これと合わせて省力化、機械化による生産性の向上を図る計画が打ち出されています。

活力ある村づくりに地場産業の育成

商工業関係では計画の第一に地場産業の育成があります。地場原料を加工する製材、木工、建築などの木材関連産業は、背景に豊富な山林資源を持ち、今後の発展性は大きいといえます。計画は経営内容の改善をはじめ、新しい製品、流通・受注ル

総合計画」を実施に移す年です。したがって、今まで以上に地域での話し合いによる相互理解と参加協調による「人の和」づく



りが必要となってきます。

住民が安心して暮らせる地域、生涯を過ごすに悔いのない郷土をつくり上げるには、住民自身

ートの開拓など各分野を通じ研究を重ね、発展方向を見いださうというものです。
このほか、企業の労働条件の向上、雇用条件、労働安全対策の充実などを促進し、安定した就業基盤を確保し若年労働力のＵターンによる活力ある村を目指したいとしています。

五十七年度もいぜんとして厳しい財政下にあります。この基本計画にそって効率的な事業運営をすることになります。
村民総ぐるみのご理解とご協力をお願いします。

による共同活動が伴わなければなりません。しかも、これらの根底をなすものは徹底した話し合いによる「人の和」と、進んで参加する連帯性にほかなりません。

もとよりこの計画は、時間と忍耐を必要としますが、村民各位のご指導とご協力のもと、ねばり強く一歩一歩前進を重ねて行く覚悟です。なにとぞことしもよろしくご指導、ご協力をお願い申し上げます。ご健康とご多幸をお祈りし、年頭のごあいさつといたします。



平パイパスで行われたいっせい放水

村消防団出初め式

この1年の活躍誓う

東消防署員らも参加

恒例の村消防団出初め式が、一月七日中学校々庭で行われました。式には桂川団長以下百七十三人の団員と自動車ポンプ二台、ポンプ付積載車九台、小型動力ポンプ五台が整ぞろい。また、今年度から業務を開始した可茂消防事務組合東消防署の署長以下五人の署員と消防タンク車も参加し、この一年の活躍へ誓いを新たにしました。

この日は時おり小雪が散らつく膚寒い日でしたが、団員の規律のよさと意気の高さを示していました。とくに関団、機械器具点検後の呼びもの放水演習では、平パイパスを会場に十七のポンプがいっせいにすばらしい水煙を上げ、近くの人や来賓のみなさんから盛んな拍手が贈ら

れました。

このあと、中学校前で整然とした分列行進を行い式を閉じました。

こうして新しい年の消防団活動がスタートし、明るい村を支える陰の大きな力として期待が寄せられますが、近年叫ばれている予防消防を村ぐるみで考えて行きたいものです。

式上、消防業務に功績のあった次のみなさんが表彰されました。(敬称略)

【県知事表彰】▽副団長 桂川久己

【県事務所長表彰】▽分団長 栗本忠一▽部長 村雲光好

【日本消防協会長表彰】▽団長 桂川耕輔

【県消防協会長功績章】▽副団長 山口直視

【同勤労章(二十年)】▽団長 桂川耕輔

【郡消防協会長功績章】▽分団長 安江計幸、安江哲男、安江正彦▽副分団長 田口洋児、三尾清行

【同勤労章(十五年)】▽副団長 山口直視

【同(十年)】▽分団長 安江哲男、田口巽信▽副分団長 田口洋児、古田啓次郎、三尾清行、松岡重治▽部長 安江龍次、安江勇、伊藤宏行、安江建夫、今井和義、桂川義春、安江吉信▽

班長 村雲勝也、今井久喜、糸魚川隆男、安江寛▽団員 樋口新祐

【特別表彰】(第三十回岐阜県消防操法大会出場選手)▽団員 藤井昭司、田口真澄、安江政辰、安江和広、安江政敏

【村長表彰】▽副分団長 安江純徳▽部長 安江龍次、安江勇、伊藤宏行、安江建夫、安江光昭、栗本保彦、安江富夫、

【特別表彰】(県消防操法大会五回連続出場)▽第一分団自動車ポンプ

【同感謝状】▽防火水槽用地提供 田口伝夫(中谷)、今井保(宮代)

【団長表彰(功績章)】▽班長 五十川幸司、村雲輝孝▽団員 田口和博、田尻貢、田口良次、村雲久夫、樋口京一、島倉芳博、栗本忠行、田口実、今井泰博、古田義隆、今井利文、嶋倉玄治、田口博光、内木真佐勝、安江恒夫、新田鈴一、今井芳行

【同(勤労章)】▽部長 安江富夫、松島光夫▽班長 今井清彦▽団員 服田順次、安江賢二、高井吉男、田口金雄、安江常利、安江好成、土井秀男、安江博、今井武司、今井章

【五十六年退職消防団員消防庁長官報償】▽元分団長 今井準、安江輝行▽元副分団長 安江政

義

■戸籍の窓 12月(敬称略)



誕生おめでとう
ごさいます

(神付) 田口喜章(雅士) 幸代(愛形)



いつまでも
おしあわせに

早瀬 準学(上親田)

久野 久子(平)

安江 守文(陰地)

大森千代子(大野郡朝日村)



おみやみ
申しあげます

安江 恒子 51歳(平)

伊藤 嘉一 91歳(日向)

小林金四郎 81歳(大明神)

安江 たけ 84歳(黒淵)

安江 ひさ 93歳(日向)

安江 国夫 60歳(下親田)

■善意の寄付 (敬称略)

『社会福祉施設費へ』

現金五万円(伊藤美代子(日向))

『選奨生資金へ』

歳末たすけあい募金

大きくふくらむ善意
 ことしも100万円突破

共同募金会東白川分会が中心となつて行つた歳末たすけあい運動は、みなさんの例年と変わらぬ深いご理解と温かいご協力により、総額百二十二万二千七百十九円となり、昨年にひき続いて百万円の大台を突破しました。

物価高や省エネなど、いぜんとして私たちの暮らしは厳しい状況にあります。みなさんからの善意は年々大きくふくらんで

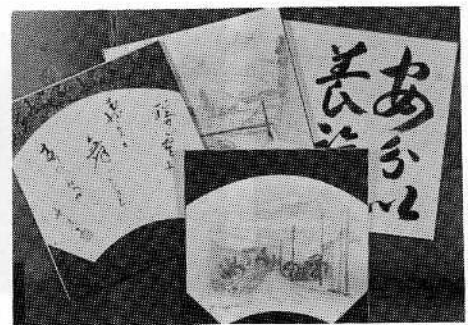
ています。

みなさんからお寄せいただいた善意の結晶は、昨年暮れ民生委員のみなさんの手で、本村からの入所者がある福祉施設などを訪問して慰問金品を贈つたのはじめ、十二月中旬に村内の恵まれないかたがたに慰問金としてお届けしました。また、配分後にお寄せいただいた募金は緊急用として保管さ

せていただきました。なお、募金は組長さんを通じてお願いしたほか、職場、団体、サークル、個人など多くのかたが、そのすべてを紙面で紹介できましたので省略しました。善意をお寄せいただいた多くの方におお喜びいたします。今後のご理解、ご協力をお願いします。

絵、書の売上金を募金
 村美術、書道クラブ

ことしの歳末たすけあい募金には、例年とちよつと変わったユニークな催しで参加した人たちがあります。



募金運動に一役買ったクラブ員らの手づくりの色紙

村文化協会所属の美術クラブ(古田保会長・十人)が、書道クラブに呼びかけ、合同で色紙に絵や書を書いて希望者を買ってもらい、その売上金一万八千円を募金されました。

古田会長は「自分たちのつたない絵や書が募金の一部になれば」と思いやってみましたが、なかなか好評だったので、また折りをみてやってみたい」と話しておられました。

また、この企画の趣旨をご理解の上色紙を手にしたみなさんも、「村内の人の書や絵はあまりなく、書いてほしいと思つても遠慮されるので手にする機会がなく、この催しはありがたかった」と話しておられました。

歳末たすけあい募金

募金内訳

組長扱い	547,624円
職場・団体・サークル(56件)	492,646円
個人(24人)	82,449円
総額	1,122,719円

配分明細

生活保護世帯(8世帯)	91,000円
準生活保護世帯(20世帯)	205,000円
重度心身障害者(27人)	163,000円
福祉施設入所者(15人)	81,000円
長期入院者(7人)	40,000円
母子家庭(14世帯)	116,000円
ねたきり老人(12人)	60,000円
独居老人(19人)	95,000円
施設配分(7施設)	80,000円
慰問品(6人)	17,590円
事務費	2,490円
総額	951,080円

※緑茶、粉茶は各施設へ配分しました

現金一万円―荏田英己、荏田克子(曲坂)

『一般寄付』

現金三千円―越原公明(名古屋市)、郵便切手三万一千九百円―匿名

■村職員(保母)募集のお知らせ

村では保育園の保母欠員補充のため、四月一日付採用予定職員の募集を行います。

○募集人員 二人(保母)

○応募資格 ①保母資格のある人 ②昭和三十二年四月二日以降に生まれた人 ③村内に住所のある人

○受付期間 五十七年二月一日から十三日まで

応募の手続、必要な書類、試験期日、場所など詳しいことは行政係(有線二一三一)へおたずねください。

■村職員の異動

本格的なほ場整備の実施に備えて、五十七年一月一日付で村職員の人事異動がありました。なお、これに伴って、産業振興課内に換地事務などを行う管理係(有線二二三三)が新設されました。異動した職員は次のとおり(丙は前職) 安江啓次(教育委員会社教主事)

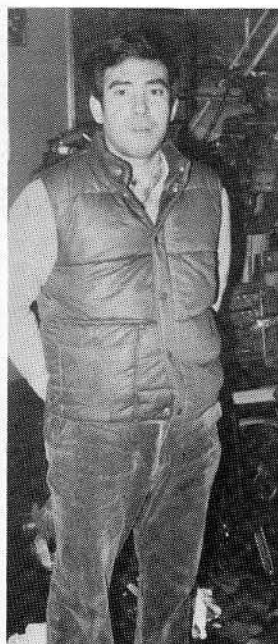
イヌ

私たちは成年

1982年

抱負ひとつ

明けまして おめでとうございます。むかしから「1年の計は元旦にあり」と申します。みなさんはどんな夢と希望をことしにかけられましたか。本号では村内のことし成年を迎えられた8人のみなさんに抱負を聞いてみました。



大沢

今井保都さん・35歳



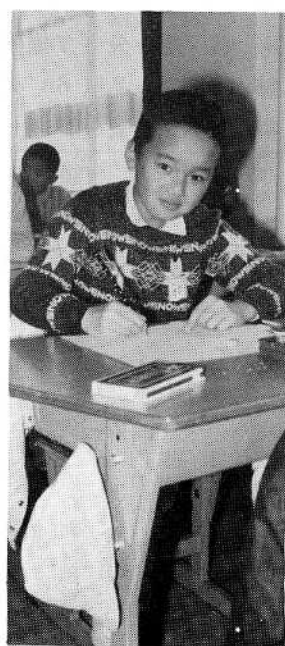
陰地

鈴木禮子さん・23歳



日向

牧野由子さん・11歳



平

安江由次くん・11歳

●とにかく健康で無事にこの一年を過ごせたら——と思います。また、スポーツは積極的にやって行きたいとくにこれまで続けてきた野球は、こつしもチームの一員としてがんばりたいと思います。

●あけまして おめでとうございます。今の私は二月に二人目の出産をひかえ、育児に追われる毎日です。こつしは、二人のこどもを健康に育て、明るい家庭を築いて行きたいと思っています。

●こつしは成年、私たちの年です。私の抱負はたくさんありますが、中でもこつしは最高学年の六年生なので、低学年のみなさんのお手本になれるよう、勉強、運動などががんばりたいと思っています。

●こつしはいよいよ六年生だ。遠くに感じた中学もあと一年でと思うと何かがひきしまる感じだ。こつしはスポーツ面で、責任をもって自分から進んでやれる力を身につけようと思う。がんばろう。



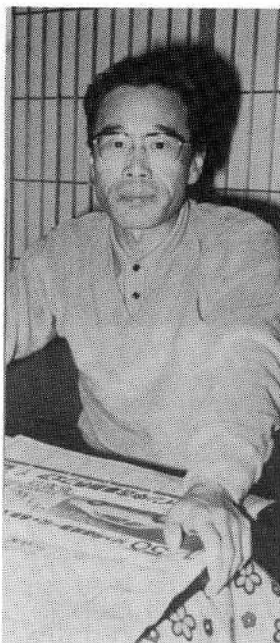
大明神
桂川完一さん・83歳

●年号も明治、大正、昭和と移り変わり、いろいろと変わったことがあります。私が、私も八十五歳の年を迎えられたのも、健康と皆様のおかげであり、このよき時代がいつまでも続くことを念願して止みません。



久須見
古田シゲさん・71歳

●あけまして おめでとうございます。私はことしで七回目の戌年を迎えました。ことしもどうか健康な毎日を送れるようにしたいと思います。暖かくなったら畑の草とりも、これまでの倍はしたいと思います。



大口
村雲康彦さん・59歳

●ことしの抱負「月並みかもしれないが健康。身心ともに健康であることは行動と秩序の要件だと思う。昨年、年はタバコをあつさりやめた。ことしは体調と季節にあわせて二、三本のジョギングに挑戦することだ。



日向
安江たがゑさん・47歳

●犬には、忠犬ハチ公とか南極観測隊とともに越冬する犬などありますが、人と生まれたからにはせめて自分のエサをあさる犬ではなく、人様のお役に立てる犬になれるよう、ことしもがんばりたいと思います。



永

連夜火元まわりを続ける平東こども会員たち



平東こども会（中丸栄作会長、会員三十七人）は、毎年十二月一日から一月末まで平地内の火元まわりをして、火の用心を呼びかけています。

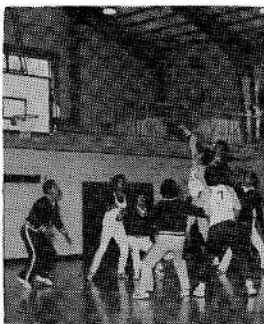
火元まわりに参加しているのは同会員の中の三年生以上の児童十六人。とくに気象条件の悪い日以外は、寒さと雪の中、毎夜六時三十分には中学校前へ集合し、八人ずつの二グループに分かれて東と西、それぞれ一、二回をまわっています。

高学年の児童が打つ拍子木に合わせ、「マッチ一本火事の元、火の用心」「たばこの温度七百

度」などいろいろな文句を考えては、火の用心を呼びかけています。

もともとはこどもたちの発案で始まったこの行事、こととして十八年目を迎え、寒い冬の風物となつています。また、こども同士の親ほくを深める場にもなっており、この行事に参加できない一、二年生も早く三年生になつて参加したい——と心待ちしていると聞きます。

平地内の人たちは、こどもの声を聞くたびに身をひきしめて火の用心に心がけています。



将棋大会に40人が参加

華やいだふんい気の中で対戦

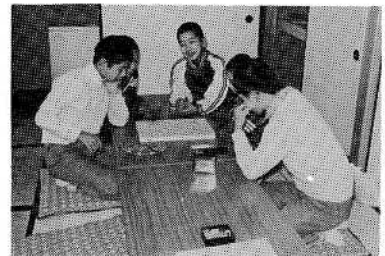
村文化協会将棋クラブ主催の新春恒例将棋大会が、一月三日村民センター婦人の部屋で、また囲碁クラブ員らによる囲碁の集いも老人の部屋で行われました。

将棋大会はことしで四回目を迎え、愛好者も年々増えており、ことしの大会には小、中学生の参加は減ったものの一般参加が

多く約四十人が集まりました。会場では、正月らしい華やいだふんい気と和気あいあいとしたムードの中にも、終始真剣な表情で腕組みし、全神経を集中して対戦する姿がみられました。

将棋大会の一般部の成績は次のとおりです。（敬称略）

優勝 安江 成豪（中谷）
準優勝 安江 勝哉（平）
三位 大坪 鉦明（平）



村民センター婦人の部屋で行われた将棋大会のもよう

平東こども会 冬の夜に「火の用心」 18年目迎えた火元まわり

14チームが熱戦展開 新春バスケット大会

恒例の新春バスケットボール大会が、一月二日中学校体育館で開かれました。写真。

この大会は、村内の愛好者のほか、冬休みで帰省している人たちにも参加を求め、東白川中卒業年度別チーム対抗で親ほくを図ろうと行っているものです。大会には男子九チーム、女子五チームが参加し、トーナメント戦を展開しました。

とくに今大会には、平地区の往年の選手たちがチームを組んで「年長者チーム」として参加し、中学二年生チームと熱戦を繰り広げ、会場から盛んな拍手を送られていました。

当日の成績は次のとおり。

『男子の部』①五十二年卒業生②五十四年度卒業生③中学二年生、四十九年度卒業生

『女子の部』①五十五年卒業生②五十三年卒業生③中学二年生A、中学三年生

早瀬さんから贈られたアロエの写真



ふるさとへの便り

アロエが命の恩人?

早瀬正己

このほど東京にお住まいの早瀬正己さん(神戸平出身)からお便りといっしょに二枚の写真が届きました。写真はアロエの花で、昭和五十三年の暮れから翌春にかけて温室内で冬越ししたときに咲いたもので、花はその後も毎年花をつけているそうです。写真は小学校と村民センターにかけてくださいと寄付していただきました。では、お便りの一部を紹介しましょう。

私は十四年前に胃カイヨウで胃の三分の二を切除しましたが、その後残った部分に再びカイヨウができ、もうだめだと思いましたが、しかし、知人のすすめでアロエの葉を三、四葉くらいずつ毎食、約半年間食べたおかげでこん跡もなく全治しました。医師が不思議がってどうしたことかと問われましたので、ア

ロエのことを話しました。医師はさっそく書物で調べられたところ、カイヨウに効く成分がアロエに含まれているとのことでした。

また、東京農大の先生によれば「アロエには肉を内部から盛り上げる成分が含まれているから、それが効いたんだろう」とのことでした。

以来私はアロエをたくさん育て、食べ続けています。幸い七十歳になろうとしているのに、胃は丈夫です。

私はアロエをみるたびに命の恩人?と思っています。

写真は私の部屋に飾っていたのですが、参考までに送ります。ふるさとのみなさんに見ただけいたら幸いと存じます。

昭和五十六年

十二月七日

東京にて

早瀬正己

家庭の療 + 医

塩分とのつきあいは ほどほどに

二月の第一週は成人病予防週間。成人病は日常の生活に気をつけたり、定期的に健康診断を受けることで、かなり予防できます。成人病についての知識を高め、早期発見・早期治療に努めましょう。

ところで、この「成人病」というのは、特定の病気の名前ではなく、中年を過ぎた人々に多くみられる病気や症状の総称です。

代表的なものとしては、脳卒中、がん、心臓病、高血圧、糖尿病があげられます。このうち、高血圧はそれだけでは死に至るといふ病気ではありませんが、長く続くと心臓や腎(じん)臓に負担がかかり、脳卒中の原因にもなりますから、軽視は禁物です。

高血圧は、腎臓病などの病気が原因のこともあります。しかし、これといった病気でないのに、血圧が高くなる場合があります。

もともと血圧は、気温や運動、精神的ストレスで高くなったりしますし、個人差がありますから、自分の血圧が平均より高い

から病気、ということはありません。しかし何度計っても高いときは要注意です。

高血圧は、食塩の摂取量に関係がある、といわれていますが、「昭和五十四年国民栄養調査成績」によりますと、食塩摂取量は、一人一日平均十三・一グラムとなっており、これは「昭和五十四年改正日本人の栄養摂取量」で望ましいとされる量、十グラム以下を上回っています。日本人は全般的に塩分のとりすぎといえます。血圧の高い人は特に注意しましょう。

塩分のとりすぎを防ぐには、まず、おかずの味付けを薄くするなど、ふだんから薄味の習慣をつけることが先決です。また、昼食で塩辛や漬物など塩分の多いものを食べたときは、夕食は酢で味付けしたものや野菜サラダといった献立にするなど、一日の摂取量「十グラム以下」を守りましょう。

一般に、調理食品やインスタント食品は味付けが濃く、塩分も多くなっていますから、特別な注意が必要です。

小学生の作品

風景

六二二
小池はるみ

東白川小6年
小池はるみ

あまき

一ねんやすえみお

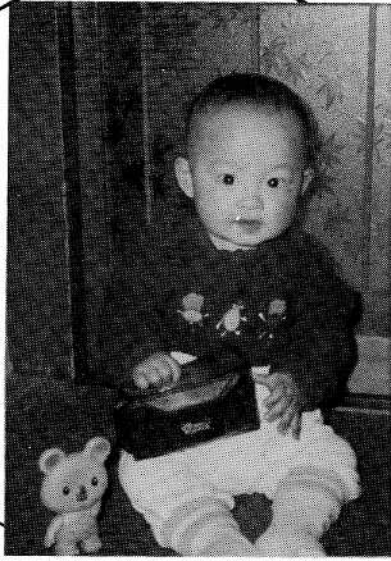
東白川小1年
安江未緒

希望の朝

東白川小5年
今井俊太

お正月

東白川小3年
桂川淳次



すくすく育て

安江昭仁(あきひと) 56・1・9生
上親田 安江光昭・啓子さんの長男

係から

このページは、みなさんの積極的な参加で作り上げて行きたいと考えています。

現在、小・中学生のみなさんの書や絵を適当に選んで掲載しています。このほかにもぜひ村内のみなさんに見てもらいたいという作品がありましたら、役場の企画財政係(有線二一八五番)へご連絡ください。

また、すくすく育てのコーナーにもどしどしこどもさんの写真をお届けください。
そのほか、みなさんの身のまわりにあるできごとなども係へお知らせください。



あなたの作品をお寄せください。
・初心者、とくに若い人たちの投稿を歓迎します。
・毎月末までに、神土田口良三宛に出してください。

生活支へあの山この山三十年尾根も峽間も冬霞せり

越原 安江 香

三時起床鶏出荷とのみ記し今日の日記を閉じていねけり

安江 幸

百歳の老を葬ふ生花の上蜂が交尾みて生命をのこす

加藤 公一

ラーメンの熱きは少し舌に残り体横にして思ふことなし

田口 圭二

テレビより除夜の鐘の音おんおんと響きわたりて年改まる

五加 安江と志江

穂すすきの風に波立ち葉ずれする休耕田は見るに淋しき

神土 村雲 むめ

リハビりに気を配りつつ励む夫つたなき文字の涙ぐましも

田口 恵津

干柿の皮をおやつに幼な日の約しき暮し今は笑へど

今井 統子

産土の宮橋渡り大鳥居仰げば石階はるかに高し

村雲 傳三

強られし減反の田に育ちゆく苗木たくまし東濃繪

樋口喜代美

そびえたるものは清しも月影に高く組まれしビルの櫓も

田口 すぐ

いつしかに褪せし紅葉も散り残り川沿ひ昏く陽はかげりつつ

今井 惣十

朝冷えの硝子戸に来しひたきをとタモとる一瞬小枝にとまる

小池いちの

病室に煮豆するとふ義妹を見舞ふ幾度こゝろに重し

田口かず子

大型の喜寿のまんじゅう困みつつ包丁見つむる幼らの睡

安江 守平

何一つまとまらぬまま暮るる日の虚ろ心に夕餉にむかふ

田口 しづ

秋時きの草花は小さき葉をつけぬ暖冬なれと希ふ明け暮れ

佐藤由美子

険しがる農のことなど忘れむと昔振りなる花餅かざる

田口 良三



新刊です — 中央公民館図書室

峠の群像『上』

堺屋太一

“雪は消えても名は残る”とまでいわれた赤穂浪士の事件は、今までに数多くの書物、映画、テレビドラマにと取りあげられてきました。

この本もまた赤穂事件を描いたものです。ただ、今までのものところがうところは、時代の流れに重点をおいて描かれていることです。

事件の起きた元禄時代は、徳川政権が最も栄えて頂点にあった時、そして徐々に下降し始めた時、いわば“峠”でありました。その峠に集まった人々、事件に関係した人たちはもとより、それをとりまく人々を、作者独得の視点からとらえて、なぜ事件が、この時代に起きなければならなかったのかという話を語りかけています。(上巻のみ)

郷土の民俗



— 村誌編さん室だより

衣の自家生産(その二)

木綿(もめん)は麻布に比べて軟らかく、膚さわりもよく、それに暖かであったので時代が進むにしたがって、麻布よりも木綿のほうが大いに普及した。絹織物の原料である生糸の歴史は古いが、江戸時代の中ごろまではこの村に生糸という商品はなく、自家用としてその生産があったに過ぎない。しかも当時は、玉繭を煮て手で糸に引き延ばし、よりをかけたつむぎ糸を使って麻糸や木綿糸を混ぜた糸(つむぎ)を織る程度であった。

また煮た繭をむいて一尺四方に引き延ばしたものを真綿(まわた)といい、今でも布団を作る場合などに使われている。江戸期の後半寛政十一年(一七九)ころ、この村にはじめて本格的な製糸業が営まれるようになってからは、生糸の生産も徐々に高まり、養蚕は農家にとって大きな収入源として発展した。絹布を織るには木綿の場合と変わらないが、明治初年までは衣服の制限などがあって、自家用に絹物を織ることは極めて少なかった。

仕事着と普段着(その一)

昔の農民生活では普段着と仕

事着の区別などはなく、着物といえど男女とも手織りの麻布を浅黄に染めて、単衣(ひとえ)に仕立てたものを寒暖に応じて重ね着していた。木綿が使われるようになる夏は単衣、冬は綿入、春・秋は袷(あわせ)と季節に応じた着物を着るようになった。労働用には、一般に身丈を短かくし、袖は筒袖で下衣は浅黄の股引姿か「黒川タツツケ」と称する山袴を着用するのが、この地方の仕事着であった。後に山袴の一種で裾にヒダをとり、横布れの筒状の裾継ぎをつけた「カルサン」というくくり袴が登場し、男女兼用として一般に広く用いられた。

— つづく —

▽ 今月の料理 △

肉みそそば(四人分)

【材料】生中華そば四玉、豚ひき肉百五十g、ねぎ半本、生姜一かけ、油大さじ三杯半、赤みそ大さじ二杯半、しょう油大さじ二杯半、砂糖大さじ半分、水大さじ四、もやし百五十g、キュウリ二本、ニンジン八十g、卵二個、塩少々

【作り方】①そばはたっぷり沸騰した湯に入れてよくほぐし冷水にとり、ざるに上げて水けを切る②ねぎと生姜はみじん切りにする③油を熱しねぎと生姜、ひき肉をいため、水と調味料を加えどろっとするくらいまで弱火で煮る④もやしは沸騰湯でさっと湯で、水けを切って二、三か所を切る⑤キュウリとニンジン斜め千切りにし、ニンジンだけさっと湯でる⑥卵は塩少々を加えてよくときほぐし、うす焼きにして細く切る⑦器にそばを盛り、もやし、ニンジン、卵、キュウリをきれいに盛り合わせ、肉みそを上に乗せて食べる。

◇ ご自慢の料理などありましたら三百字程度にまとめ、係までお寄せください。

ミニニュース

園児ら元気に

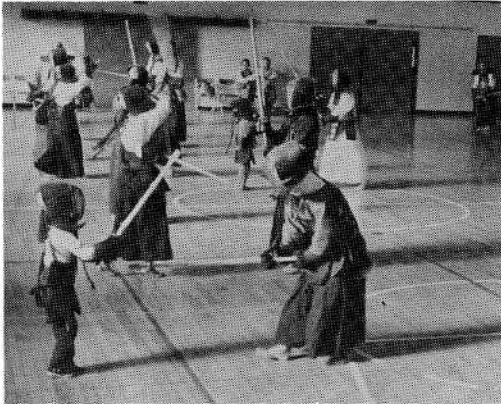
おもちつき

—越原保育園

十二月二十六日、越原保育園児たちが恒例のもちつきを行いました。写真。

きねを重そうに持ち上げ、保母さんの手助けでやっつく園児や、軽々と何度もつく園児などさまざまでしたが、ほかの園児のかけ声も手伝ってにぎやかな中でみんなもちつきを楽しみました。

つき上がったもちには、保母さ



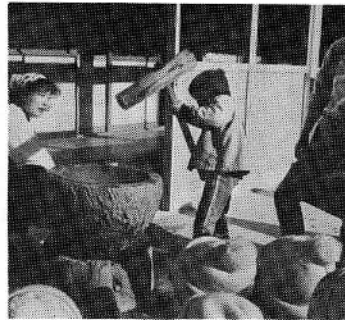
剣道愛好者ら 元気に初げいこ

1月10日、中学校体育館で剣道愛好者が初げいこを行いました。

この催しは東白川剣道部、中学校剣道部父兄、少年剣道クラブ父兄らが合同で開いたもので、父兄らのほか、チビッ子剣士や年配の有段者まで約80人が参加。9時から約1時間にわたって初げいこをしたあと、会場を村民センターに移しておしるこ会を開きました。

剣道は昨年、少年剣道クラブが設立され、その活動が盛んになってきていますが、これを契機にさらに剣道基盤を広めたいと関係者らは話しています。

写真は初げいこする剣道愛好者たち



最近ではきねとうすでのもちつきにかわり、電気製品によるもちつきが多くなっていますが、保育園ならではのこの行事、いつまでも続けて行ってほしいものです。

村内各所で左義長

左義長(どんと焼き)は、郷土の伝承行事として近年村内のあちこちで盛んに行われるようになりました。

古式豊かな中にも、こどもたちに村を愛する心を育ててもらい、またこの行事をいつまでも受け継いでほしい——そんな願いが大きな炎の中に包まれていくようです。(写真は陰地にて)



暮らしのカレンダー

※フツソ塗布

- ・とき 2月10日PM1:00~
- ・ところ 村民センター
- ・対象者 乳児から3歳児までの希望者(有償です)

※第8回読書講座

- ・とき 2月10日PM1:00~3:00
- ・ところ 村民センター
- ・対象者 講座生
- テーマブックによる話し合いと56年度の反省会を行います

※第7回父親学級

- ・とき 2月10日PM7:30~
- ・ところ 村民センター
- ・対象者 小学生の父親
- 思いやりのあるこどもにしてくれるために……の予定

※第8回村誌解説講座

- ・とき 2月12日 PM1:00~
- ・ところ 村民センター
- ・対象者 講座生

※乳児相談

- ・とき 2月17日 PM1:00~
- ・ところ 村民センター
- ・対象者 乳児
- 医師による健診も予定しています

※中央婦人教養講座

- ・とき 2月19日 AM9:00~
- ・ところ 村民センター
- ・対象者 婦人(講座生)
- 婦人の体力つくりと今年度の閉講式を予定しています

※公民館講演会

- ・とき 2月21日
- ・ところ 五加公民館 AM10:30~
- 越原公民館 PM1:30~
- 演題は未定ですが、講師には揖斐川幼稚園長の高橋茂一先生を予定しています

※村民親ぼく剣道大会

- ・とき 2月28日 AM9:00~
- ・ところ 中学校体育館
- 小、中学生、一般ともに多数ご参加ください

2月は成人病予防月間です

寒い期間の健康管理をよりよくしてもらうため、冬場の健康相談(血圧測定)を各組を巡回して実施する予定です。